

【地域農業情報-3】

農業と福祉が連携するための取り組み ～農福連携 両者にとっての架け橋に～

少子・高齢化が進んでいる中、農業分野では労働力不足を補う手段として、障がい者雇用に関心が高まっています。一方で、農業に参入する福祉事業所が増加していますが、専門的な知識や技術がないため、障がい者の就労・自立に繋がっていません。

そこで中予地方局では、今年度から「農福連携促進モデル事業」を実施し、農業分野への障がい者の就農促進や障がい者施設スタッフの技術力向上支援に取り組みました。

■ 福祉と農業の知識を深めるために

障がい者の雇用を考えている農業者や、農業生産活動に関心のある福祉事業所を対象に、農作業体験や農業技術の基礎研修を行い、お互いの理解促進を図りました。

農作業体験では、実際に障がい者が農業者の畑や樹園地で作業を行いました。



第1回協議会

■ 今後の取り組み

引き続き農業分野での障がい者就農の意識啓発に努めるとともに、障がい者に適した農作業の検証を行い、農業者と障がい者がともに支えあう社会づくりを目指していきます。



農作業マッチング事例(たまねぎの収穫)



事業者スタッフの栽培研修会

【地域農業情報-4】

東温市に新たな集落営農法人設立 ～中山間地域の活性化を目指して～

地域農業室では、高齢化が進み担い手不足と荒廃農地の増加が懸念される中山間地等を中心に、集落営農の組織化や法人化への支援を行っています。このたび、棚田で有名な東温市井内地区に「農事組合法人サンライズいうち」が誕生しました。

■ 集落営農の活性化

井内地区では平成27年に、地域農産物の生産・販売体制整備を担う組織として「井内集落営農会」が設立されました。その後、井内米のブランド化を目指して食味向上やPR活動に努め、さらに持続可能な組織として発展するため、平成29年2月17日、農事組合法人となりました。



井内米をPRする角谷会長

■ 法人が目指す将来

美しい棚田の郷“井内”で芽生えた地域活性化の取り組みを「農の力」で支えていきたいと考えています。

具体的には、井内米の販売力強化とシキミ集出荷体制整備により法人の経営体力を高め、「シキミ専作化」「小作契約・作業受託による耕作放棄地対策」「都市住民との交流活動」を進めていく予定です。



設立総会